

海外協力室 (OSCC) の紹介

— 船舶技術援助でフィリピンやガンビアなどに貢献 —

海外協力室は英文略称でOSCCですが、これは2004年4月1日にSRCへ統合された(財)海外造船協力センター(Overseas Shipbuilding Cooperation Centre)に由来しています。

元々OSCCは1971年SRCが船舶部門の経済・技術協力の振興を目的に海外技術協力本部として、横浜市港南区に本館、研修生宿舍等を建設し立ち上げたもので、その後その機能を強化するためにOSCCは1980年SRCから分離独立した経緯があります。

現在の主なコンサルタント業務は：

- ・国際協力機構(JICA)によるフィージビリティスタディ(F/S)等の開発調査事業
- ・被援助国へのJICA無償援助または国際協力銀行(JBIC)融資支援による船舶案件に係る基本設計、実施設計、入札監理、施工監理、引渡し検査業務
- ・JBICによる案件形成支援事業(Special Assistance for Project Formulation -SAF事業)
- ・国土交通省等からの船舶部門の案件開発に繋がる委託調査事業です。

このようなコンサルタント業務を的確に処理し客先の期待に沿うべく、海外協力室はNKの臨時監査により本年6月21日付けでISO9001-2000のQMSを旧OSCC技術協力部より継続取得しております。

SRCのOSCCには以下のプロジェクトが引き継がれています。

- ①フィリピン開発銀行が実施機関となっている「内航海運近代化計画(第2期)」。

本件はJBICによる約200億円のプロジェクトです。OSCCはノルウェーのSHIPDECO社とJVで技術審査の業務を行なっています。

- ②インドネシア運輸省教育訓練庁が実施機関となっているJBIC融資案件「海員学校設立計画」。

このプロジェクトでは、基本設計、

P/Q及び入札図書作成、P/Q及び入札評価作業、業者契約交渉支援、図面承認、施工監理、工事完了立会い、保障期間モニタリング等がOSCCの主たるコンサルタント業務です。2004年3月に一番校である、ジャカルタ郊外のマウク校が完成しました。現在は二番校、三番校であるスマトラメダン市郊外のパンカランブランダン校、パプア州ソロン市ソロン校の建設業者入札の評価作業中です。

- ③インドネシア運輸省海運総局が実施機関として行なっているJBIC融資案件「防災船調達計画(500GT)」。

OSCCの主なコンサルタント業務は上記「海員学校設立計画」のそれと概ね同じです。2004年7月に一番船の起工式を新潟造船で行ないました。二番船は三井造船・新潟造船の指導でインドネシア、スラバヤにあるP.T.PAL造船所で建造されます。

インドネシアでは海賊問題、対テロ対策からこのタイプの船の需要が高まり、実施機関はもう1隻の追加建造をJBICへ打診中です。

- ④フィリピン運輸・通信省が実施機関となっているJBIC融資案件「海上安全向上計画(第3期)」

これは海難防止型設標船(約750 GT)を2隻建造することが主たる目的のプロジェクトです。残念ながら、プロジェクト実施自体がこ

こ2年間延び延びとなっており、建造造船所を選ぶ入札事前資格審査(略称 PQ)の新聞公示もなされておられません。プロジェクトの今後については、JBICとフィリピン運輸・通信省間で協議が行なわれております。

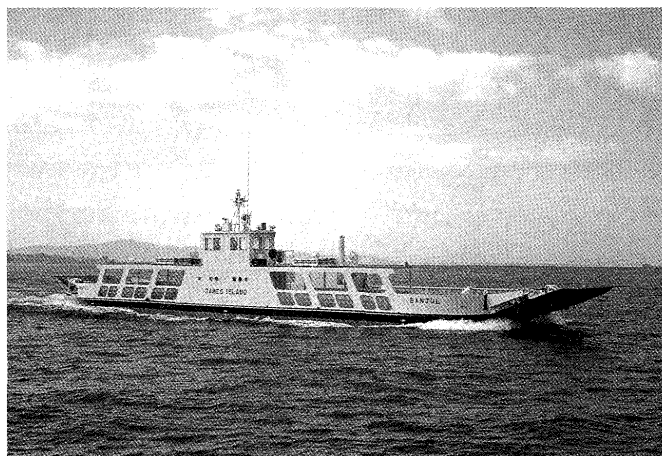
この4月の統合後、下記2案件を受注しました。

- ①JICAのコンサルタント入札でフォローアップ協力事業であるガンビアの「トランスガンビア公共輸送能力向上計画」。

この案件は1988年わが国から無償資金協力援助で供与された2隻(170GT)の河フェリーの修復をJICAのフォローアップ協力スキームで行なうもので、OSCCは修復計画書作成、修復業者選定の入札監理、修復工事監理、引渡し立会いまでをコンサルタントとして参加します。

- ②JICAの無償資金協力事業であるモザンビークの「ベイヤ港浚渫船増強計画」。

この案件は同国へ無償資金協力で供与が予定されているホッパーサクシオン型浚渫船(泥艀1,000m³)に係る基本設計業務です。予定どおり進めば、来年度は実施設計、造船所入札、建造となり、OSCCはコンサルタント業務をモザンビークの実施機関から委託されることになります。



1988年3月 ガンビア Gambia Port AuthorityへJICA無償資金協力により供与された 河フェリー JAMES ISLAND号 (170GT)